

実践経験を積み重ね、臨床能力を高める

1年次から柔道整復学に関する専門知識を学び、優れた治療技術を身につけます。身体に触れ、骨格の構造などを確かめながら実践的に理解を深めます。また、本学附属の接骨センターで実習を重ね、柔道整復師として必要な実践力を身につけます。

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
	教養教育と並行して 医学の基礎を学ぶ	基礎知識を深めながら 幅広い視野を身につける	基礎から臨床におよぶ 整復学とその技術を学ぶ	柔道整復の治療技術を 臨床実習に活かす
	教養教育と並行して身体づくりや仕組み、働きなど、施術に必要な基礎知識を深めます。また柔道整復の歴史についても学びます。	疾病や傷がいの成り立ちやその概念、内科から整形外科、病理学・リハビリテーション医学などの分野まで幅広く学ぶとともに、骨折・脱臼・軟部組織損傷の理論を学びます。	臨床の現場で活用できる知識や技術の修得を目指します。骨折実技や脱臼実技、生理学、病理学、リハビリテーション医学の実習を体験します。	本学附属の接骨センターにて多くの症例を経験します。また、学外実習では実践的な経験を積み上げます。さらに卒業研究を通して研究的思考を身につけます。
共通基礎科目	● 自然科学 生き物の科学／物質の反応／物質の科学 ● 健康科学 生化学／健康の創造／健康スポーツ ● 人間と社会 教養特講／法学 心理学概論／社会保障の基礎 ● 言語とコミュニケーション 英語Ⅰ・Ⅱ／英語コミュニケーション 中国語 ● 情報処理 情報リテラシーⅠ・Ⅱ	● 健康科学 薬物療法学	● 健康科学 栄養学	
専門基礎科目	● 人体の構造と機能 解剖学Ⅰ・Ⅱ 生理学Ⅰ・Ⅱ ● 保健医療福祉と柔道整復の理念 柔道整復の歴史 柔道Ⅰ・Ⅱ PICK UP	● 人体の構造と機能 解剖学実習 生理学Ⅲ・Ⅳ ● 疾病と傷害 病理学Ⅰ・Ⅱ 一般臨床医学Ⅰ・Ⅱ 外科学概論Ⅰ・Ⅱ 整形外科Ⅰ・Ⅱ リハビリテーション医学Ⅰ・Ⅱ ● 保健医療福祉と柔道整復の理念 社会保障制度と職業倫理（生命医療倫理を含む） 柔道医療安全学 柔道Ⅲ・Ⅳ PICK UP 衛生学・公衆衛生Ⅰ	● 人体の構造と機能 生理学実習 運動学Ⅰ・Ⅱ ● 疾病と傷害 病理学実習 一般臨床医学Ⅲ・Ⅳ 外科学概論Ⅲ 救急法 整形外科Ⅲ・Ⅳ リハビリテーション医学実習 ● 保健医療福祉と柔道整復の理念 関係法規 研究の展開 柔道Ⅴ PICK UP 衛生学・公衆衛生Ⅱ・Ⅲ	● 人体の構造と機能 運動学実習
専門科目	● 基礎柔道整復学 運動器系の解剖Ⅰ・Ⅱ 骨の損傷概論Ⅰ・Ⅱ 関節の損傷概論 軟部組織損傷概論 ● 臨床柔道整復学 画像診断学 ● 柔道整復実技（臨床実習を含む） 包帯実技Ⅰ・Ⅱ 臨床実習Ⅰ PICK UP	● 臨床柔道整復学 後療法学 上肢の骨折理論Ⅰ・Ⅱ 下肢・体幹の骨折理論Ⅰ・Ⅱ 上肢の脱臼理論Ⅰ・Ⅱ 軟部組織損傷各論Ⅰ・Ⅱ ● 臨床実習 臨床実習Ⅱ・Ⅲ PICK UP	● 臨床柔道整復学 下肢・体幹（頸関節を含む）の脱臼理論 ● 柔道整復実技 高齢者・競技者の外傷予防 上肢の骨折実技Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ PICK UP 下肢・体幹の骨折実技Ⅰ・Ⅱ PICK UP 上肢の脱臼実技Ⅰ・Ⅱ ● 臨床実習 臨床実習Ⅳ・Ⅴ PICK UP ● 卒業研究 卒業研究Ⅰ	● 臨床柔道整復学 柔道整復学理論総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ ● 柔道整復実技 運動器の外傷実技 下肢・体幹の骨折実技Ⅲ PICK UP 下肢（頸関節を含む）の脱臼実技 軟部組織損傷の実技Ⅰ・Ⅱ ● 臨床実習 臨床実習Ⅵ PICK UP ● 卒業研究 卒業研究Ⅱ

※カリキュラムは変更になる場合があります。

Look / 1年生 前学期の時間割（太字…必修科目）

	時間	MON	TUE	WED	THU	FRI
1 時限	9:00 ～ 10:30			健康スポーツ(体育実技)		
2 時限	10:40 ～ 12:10	運動器系の解剖Ⅰ	生化学	情報リテラシーⅠ		包帯実技Ⅰ
3 時限	13:00 ～ 14:30	生き物の科学(生物学)	骨の損傷概論Ⅰ	解剖学Ⅰ	中国語	英語Ⅰ
4 時限	14:40 ～ 16:10	法学(日本国憲法)	生理学Ⅰ	教養特講	健康の創造(体育理論)	柔道Ⅰ
5 時限	16:20 ～ 17:50				物質の反応(化学)	

※2022年度入学生のカリキュラム

PICK UP CURRICULUM



柔道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

柔道と柔道整復師の関わりや、柔道整復師としての柔道の必要性を理解するための、必須科目です。礼法を学び、医療人としての人格形成や健康維持を目的としています。礼法・受身・乱取を行うとともに、「投げの形」や「柔の形」を通じて「技」の理解を深めます。また、審判規定も学びながら、段位の取得を目指します。



臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ

柔道整復師の業務範囲や医療機関との連携など現場に必要な基礎知識を身につけたうえで、3年次から大学の附属医療施設において、さまざまな疾患に対する問診や触診、検査および治療についての見学実習を行います。さらに4年次には、学外の整形外科医院および接骨院での実習を経験。レポートの提出と評価により、学びの理解を深めていきます。



上肢の骨折実技Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

接骨院やクリニック、スポーツの現場における骨折の手当て、治療計画の立案や実践力を身につける授業です。評価の仕方から骨折した骨を正しい位置に戻すための整復法、整復位を保持するための固定法、さらに機能回復のための治療法について学びます。骨折の部位ごとに臨床において注意すべき点を、実技指導を通して実践的に修得します。



下肢・体幹の骨折実技Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

転倒や交通事故、スポーツ等による骨折が多い下肢。下肢骨折に関する治療は、柔道整復師にとって欠かせない技術のひとつです。1年次で学ぶ骨の損傷概論や、2年次で学んだ部位別の下肢の骨折理論を基礎として、下肢におけるさまざまな部位の骨折について、整復や固定を行うための方法を、講義と実技をまじえて学びます。

ゼミナール（卒業研究Ⅰ,Ⅱ）

3年次から全学生を対象にゼミナールを開講しています。柔道整復学をはじめ運動学や整形外科学、リハビリテーション医学など約17分野のゼミナールがあり、それぞれを専門分野とする教員が指導にあたります。学生が中心となり、興味・関心に応じたテーマを設定。文献収集や実験、アンケート調査を通して医療人に不可欠な臨床研究の進め方を学びます。毎年、教員と在学生の前で研究成果を発表し、研究業績集を作成します。



ジャンプ動作のビデオ映像からケガにつながる動きをコンピュータで分析。